

新たな年次計画の策定及び基本計画における記載について

- 基本計画見直し後も、プログラムの進捗状況の把握を行い、必要に応じて推進計画を見直していくPDCAサイクルを回していくためのツールとして、年次計画を策定していくこととしたい。

- ・現行基本計画の下、各般の施策の進捗状況の把握等を行い、プログラムの推進計画を見直すというPDCAサイクルを回してきており、年次計画(アクションプラン)はそのツールとして一定の役割を果たしてきたところ。
- ・見直しにおいても、基本計画は期限を定めない長期計画とされており、PDCAサイクルを回していくため、年次計画は必要。

年次計画が果たすべき役割

- 毎年度のプログラムの推進計画、プログラム推進のための主要施策を取り纏め(Plan)
 - ・関係府省庁の当該年度の個別施策の実施予定から、プログラムの推進計画、主要施策を取り纏め
- 年次計画に基づき各般の施策を実施(Do)
 - ・関係府省庁において施策を実施
- 施策やプログラムの進捗状況の把握(Check)
 - ・関係府省庁の施策の実施状況を収集し、進捗状況を把握
 - ・新たに大規模自然災害等が発生した場合に、施策やプログラムの点検(熊本地震を踏まえ追加)
- 重要業績指標等による定量的評価の実施(Check)
 - ・重要業績指標を設定し、進捗状況を定量的に評価。
 - ・アウトカム性の高い指標による評価(例えばベンチマーク指標(仮))(評価方法の改善)
- プログラムの推進計画の見直し(Action)
 - ・施策の進捗状況や災害等から得られた知見等に基づき、取組を見直し

新たな年次計画の策定及び基本計画における記載について

章	項目	基本計画への記載案	修正理由
1	3	<p>3 基本的な進め方～PDCAサイクルの徹底～ P</p> <p>国土強靱化」は、いわば国のリスクマネジメントであり、</p> <p>①強靱化が目指すべき目標を明確にした上で、主たるリスクを特定・分析</p> <p>②リスクシナリオと影響を分析・評価した上で、目標に照らして脆弱性を特定</p> <p>③脆弱性を分析・評価し、脆弱性を克服するための課題とリスクに対する対応方策を検討</p> <p>④課題解決のために必要な政策の見直しを行うとともに、対応方策について、重点化、優先順位を付けて計画的に実施</p> <p>⑤ その結果を適正に評価し、全体の取組を見直し・改善という PDCA サイクルを繰り返すとともに、常に直前のプロセスに戻って見直すことにより、国全体の強靱化の取組を推進する。</p> <p>この際、「脆弱性の分析・評価」及び「リスクに対する対応方策の策定」に当たっては、仮に起きれば国家として致命的な影響が生じると考えられる「起きてはならない最悪の事態」を想定し、その事態を回避するために現状で何が不足し、これから何をすべきか、という視点から、府省庁横断的な「プログラム」(目標を達成するための施策群)を検討するアプローチを採用導入する。このアプローチを通じて、各分野間の有機的な連携を促すとともに、各分野の行政の取組を各種リスクの存在を明示的に織り込んだものへと逐次的に改善していくこととする。</p> <p>このような、PDCA サイクルの実践を通じて、課題解決のために必要な政策やプログラムの重点化・優先順位付けに関する不断の見直しを行う。このため、脆弱性評価手法の改善、施策の効果の評価方法の改善(進捗管理のための定量的な指標重要業績指標(KPI: Key Performance Indicator)の導入、見直し等)、プログラムごとの目標の設定と工程表の作成による進捗管理の実施導入、重要な課題に対応するための仕組みの導入など、強靱化の取組を順次ステップアップするとともに、その取組の内容・過程等を可能な限り可視化することとする。</p>	<p>・見直しにつき、「導入」との表現を修正。</p> <p>・ベンチマーク指標(仮称)等の導入を検討することから、包括的な表現に修正。</p> <p>・戦略的政策課題の検討の仕組みを基本計画に位置づける。</p>
4	3(1)	<p>(1) 毎年度の年次計画アクションプランの策定と PDCA サイクル P</p> <p>国土強靱化は、第2章で示した脆弱性評価において想定した、45 の最悪の事態のそれぞれを回避することを企図して本計画を定め、これを基本に国土強靱化に係る国の他の計画等について必要に応じ見直しを図りながら、毎年毎年様々な施策を展開していくものである。</p> <p>また、各プログラムについて脆弱性評価の結果を踏まえて推進方針を立て、速やかに府省庁連携のもとで施策を実行していくことが極めて重要であり、しかもその際、施策の進捗等に応じてプログラムを不断に見直し、必要に応じ新しい施策等を追加しながら常にプログラムを最適化した上で、プログラムの推進方針を軌道修正していくことが肝要である。</p> <p>このため、第2章で行ったプログラムごとの脆弱性評価結果を踏まえた各プログラムの推進方針を別紙3に示すとおりとし、これに進捗管理のための定量的な重要業績指標を加えた各プログラムの推進計画、プログラム推進のための主要施策を「年次計画国土強靱化アクションプラン」として推進本部がとりまとめ、これに基づき各般の施策を実施するとともに、毎年度、施策の進捗状況の把握等を行い、プログラムの推進計画を見直すという PDCA サイクルを回していくこととする。ここで、プログラムの進捗状況を可能な限り定量的に把握できるよう、プログラムごとに重要業績指標等の具体的な数値指標を設定するとともに、プログラムの進捗状況等を踏まえ、必要に応じてこれを継続的に見直すこととする。</p> <p>また、新たに大規模自然災害等が発生した場合は、これを踏まえた施策の点検を実施し、年次計画において反映させることで、PDCAサイクルを一層有用なものとする。</p>	<p>・アクションプランという名称とするか未定のため一般名称で記載</p> <p>・熊本地震を契機として、アクションプラン2017から加えた、「新たな大規模自然災害等を踏まえたPDCAサイクル」を基本計画に位置付ける。</p>